

学生に読んでほしい本 vol.1

柴田 直子



A. ハミルトン、J. ジェイ、J. マディソン著、斎藤 真、中野 勝郎他訳

『ザ・フェデラリスト（岩波文庫）』（岩波書店、1999）

1冊目のこの本は、アメリカ政治思想史の古典中の古典といってよい。通常、「古典」は難解で大学生には敷居が高いことが多い。しかしこの本は、「権力」や「自由」といった難しいテーマを扱いつつも、やさしい言葉で繰り返し丁寧に説明してくれる。その最大の理由は、この本が一般市民の読む新聞紙上において発表された論文を束ねたものだからである。

本国からの独立後、独立国家（邦）となったアメリカの13の植民地は、緩い国家連合をつくった。しかし、邦の権限を弱めてより強い中央政府をつくる必要性が認識され、1787年の夏、新しい憲法（現在のアメリカ合衆国憲法）が起草された。この新憲法案を採択するかどうかは各邦が判断する。このとき、新憲法賛成派（フェデラリスト）と反対派（アンチフェデラリスト）の激しい対立により、採択が遅れていたニューヨーク邦において、憲法起草の主要なメンバーであるハミルトン、マディソン、ジェイが、ニューヨーク邦民（ひいてはアメリカの全人民）に向けてこの新しい憲法体制の必要性を説得するため、全85編の論文を5ヶ月にわたり発表したのである。このような特定の目的をもちつつ、ここに記述される鋭い分析は、現在の政治の理解になお有用な枠組みを与えてくれる。



児玉幸多訳 二宮尊徳『二宮翁夜話（中公クラシックス）』（中央公論新社、2012）

もう1冊ご紹介するのは、皆さんがよく知っている二宮尊徳の言葉（教訓）を、尊徳に師事した福住正兄が書き記した書である。二宮尊徳（1787-1856）というと、薪を背負って書を読む像（負薪読書図）が有名である。しかし二宮尊徳自身は、もちろん四書五経の深い読書を背景としつつも、むしろ机上の学問の人ではなく、実務の人であり経営者であった。現在の小田原市の農家に生まれ、20歳で没落した一家を再興した後、36歳から70歳まで、600余の農村、小田原藩や相馬藩を含む多くの藩、そして国に至るまでの救済復興に奔走し、再興を果たした。復興の方式は「仕法（しほう）」といい、その基本は報徳、勤労、分度、推譲の4つの実践にあるとされる。「報徳」とは生活の信条であり、米一粒さえ自分では作れない人間が、天地人から無限の恩徳を受けていることの自覚であり、その恩恵への恩返しに働くという人生観である。一見、今とは無縁の昔の話のように見えるが、東日本大震災後、東北に駆けつけた皆さんのようなボランティアの中に、「金のために働く」とことと異なる報徳の勤労があったのではないか。政治が混迷する昨今、本書は再評価されているという。「大事をなそうと欲すれば、小さなことを怠らず勤めよ。小が積もって大となるものだからだ（積小為大）」などは、聞いたことがあるであろう。

編集後記

今年度は研究所に新しい動きがありました。一つは、これまでの共同研究の枠組みを個別プロジェクト・共通プロジェクトとして整理しなおし、それぞれを促進するべく予算の配分などにも工夫したこと。二つ目は、研究所員間の日常的な研究交流のために「法学研究所懇話会」をスタートさせたこと。三つ目として、上記共通プロジェクトの具体的促進策として、2月23日(土)に法学研究所ワークショップ「地域社会における法の役割—グローバル化する世界の中で—」を開催したこと。いずれも始めることよりも、継続することの方が何倍も大変なことばかりですが、みなさんのご協力を頂き、積み重ねていきたいと考えています。

本ニュースレターについても、新しい企画「学生に読んでほしい本」シリーズを始めました。学生が、教員の研究者としての顔を知るきっかけとなってほしいと考えています。皆様からのご寄稿を是非お願いします。また、「グローバル環境政策研究所」は、本学の「プロジェクト研究」というスキームを用いたものですが、本研究所の客員研究員である石川氏を中心とし、本研究所の共同研究の発展型の一つとして位置づけ得るものです。

このような新しい動きの中で、ニュースレターの発行が遅れてしまったことは、痛恨の極みです。ご寄稿くださいました皆様はもちろんのこと、所員の皆様にもお詫び申し上げます。(M)

法学研究所

所長 小森田秋夫 教授
常任委員 井上 匡子 教授
嘉藤 亮 准教授
東郷 佳朗 准教授

地方自治センター

センター長 安達 和志 教授
運営委員 出口 裕明 教授
三浦 大輔 教授
諸坂 佐利 准教授

国際人権センター

センター長 阿部 浩己 教授
運営委員 山崎 公士 教授
井上 匡子 教授
嘉藤 亮 准教授

神奈川大学法学研究所 ニュースレター 2013.3/No.17

発行者：神奈川大学法学研究所 小森田秋夫
〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1 TEL 045-481-5661 (代表) FAX 045-413-6141

印刷所 (株)江森印刷所

〒221-0014 横浜市神奈川区入江1-34-25 TEL 045-421-2297